

## 三浦市立初声小学校

研究テーマ：自ら学び未来を創る初声っ子～自分の想いをもち、伝え合う子の育成～

### 1 実践の目的

初声小学校の学校教育目標は「自ら学び未来を創る初声っ子」である。この目標は、2018年に、子どもたちの実態と課題、目指す子ども像を全職員で話し合い、定めたもので、毎年見直しをしている。本校の子どもは、素直で優しく、前向きな子が多い反面、自主性や積極性に欠け、「自分で考え、話し合い、発表する力」が弱いことが課題として挙げられた。そこで、重点を「自分の想いをもち、伝え合う子の育成」とし、このような子どもを育てるため、校内研究を行ってきた。また、昨年度、年間指導計画の作成をしたが、整理するところまでで系統性を意識したのものまでは繋がらなかった。この反省を受け、今年度は、より系統性を意識するために、物語文に焦点を当て、推し進めていくことにした。

### 2 実践の内容

#### (1) 研究の柱

- ① 年間指導計画の作成及び、系統性の整理
  - ② 授業改善
  - ③ ICT 機器の活用
- の3本を研究の柱としながら研究を推し進めてきた。
- ① 年間指導計画の作成及び、系統性の整理
- 子どもの実態に即し、着けるべき力を明確にして、確実に身に付けさせるためには、授業者が個々に授業を行っていくのではなく、学校がチームとなって、6年間、更には小中9年間を見通した指導を行っていく必

要がある。そこで、今年度は国語の「物語文」に焦点を当て、年間指導計画や系統性を意識しながら、単元・授業づくりを行った。系統性を意識することで、各単元でつけなくてはいけない力の定着を意識し、学習の積み重ねを考えながら年間指導計画を学年ごとにテーマを決めて単元づくりを行った。

スイマー	お学級	わたしはおねえさん
<p>二、登場人物の感情の表れや心情、場面について、場面の変化のりら結び付けて真諦的に整理すること</p>	<p>二、登場人物の感情の表れや心情、場面について、場面の変化のりら結び付けて真諦的に整理すること</p>	<p>二、登場人物の感情の表れや心情、場面について、場面の変化のりら結び付けて真諦的に整理すること</p>
<p>三、登場人物の感情の表れや心情、場面について、場面の変化のりら結び付けて真諦的に整理すること</p>	<p>三、登場人物の感情の表れや心情、場面について、場面の変化のりら結び付けて真諦的に整理すること</p>	<p>三、登場人物の感情の表れや心情、場面について、場面の変化のりら結び付けて真諦的に整理すること</p>
<p>二、登場人物の感情の表れや心情、場面について、場面の変化のりら結び付けて真諦的に整理すること</p>	<p>二、登場人物の感情の表れや心情、場面について、場面の変化のりら結び付けて真諦的に整理すること</p>	<p>二、登場人物の感情の表れや心情、場面について、場面の変化のりら結び付けて真諦的に整理すること</p>
<p>二、登場人物の感情の表れや心情、場面について、場面の変化のりら結び付けて真諦的に整理すること</p>	<p>二、登場人物の感情の表れや心情、場面について、場面の変化のりら結び付けて真諦的に整理すること</p>	<p>二、登場人物の感情の表れや心情、場面について、場面の変化のりら結び付けて真諦的に整理すること</p>

小学校における国語の指導事項〔思考・判断・表現〕の内容と教材名で整理した文学的な文章年間指導計画

#### ②授業改善

まず、指導要領を読み込むところから始め、ねらいや内容に合わせて手立てを考えていく。また、読解中心や言語活動を目的とした授業からの脱却、内容理解の授業から資質・能力の育成を目指した授業への転換、問いを生む学習課題の設定、学びのプランの活用などの視点をもって授業改善を図っていった。

#### ③ICT 機器の活用

タブレット等のICT機器に関して、授業の中でいかに有効活用できるか、実践を行い、集約・共有する中で、積極的な活用につなげることができた。

(2) 講師を招聘しての研修会、および公開授業研究会の実施

本校は経験年数5年目以内の若手の多い学校である。アンケートをとったところ、勉強する機会を求める声がたくさん上がり、公開授業研究会にも前向きな声が多く聞かれたので、研究の節目として実施した。公開にあたり、年間通して横浜国立大学非常勤講師の白井達夫先生に研究の方向性や指導案作りまでご指導いただいた。

公開当日は市内の先生方にも参観いただき、授業に対し、様々な意見をいただいた。



公開授業研究会 研究授業の様子

### (3) 学年部で行う単元・授業づくり

公開授業研究会を実施するにあたり、「授業者を孤立させないこと」を意識し、低・中・高の学年部を主体として研究を進めてきた。まず、学年部ごとに世話人を設定し、スケジュール管理や学年部への声掛け、研究推進委員会との連絡・調整・授業者の相談相手をお願いした。これによって、従来授業者が行っていた雑務の負担が軽減された。また、夏休みの始めに「研究日」を設定し、学年部で教材研究から始め、夏休みの後半に指導案検討を行い、白井先生にご指導いただいた。夏休み以降も定期的に学年部会、拡大研究推進委員会、研究全体会を設定した。そうすることにより、授業者が一人で悩むようなことにならず、前向きな雰囲気の中で研究をすることができた。また、世話人のおかげで、「全部自分でやらなくちゃ」「授業者なのだから頑張らないと」といった授業者の負担の過多や「誰かがやるだろう」といった責任

の分散を避け、円滑な研究の推進に繋がったと考える。



公開授業研究会 協議会の様子

## 3 実践の成果

国語の物語文に焦点を当てたことにより、より系統性を意識したうえで、単元づくりをしようとする意識ができてきた。それまでは、単元単体で考えていることが多かったが、「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成」「共有」と、「読むこと」の指導事項や年間指導計画を意識し、系統的に何の力をつけるべきか考えながら単元づくりをすることができた。今年度は、文学的な文章に焦点を当てたが、説明的な文章でもこの考え方を生かすことができるだろう。

また、研究を進めるにあたって、以前までは、研究に対する負担感の話が多くあがっていたが、公開授業研究会を行ったうえで、若手を中心に、公開してよかった、勉強になった、もっと勉強したいといった声も聞かれるようになったことも大きな成果と考えている。

## 4 今後の展開

学校教育目標を研究テーマとし、国語科の研究を続け、授業や単元の作り方、年間指導計画や系統性を意識した組織的な研究など、一定の成果が得られた。来年度は、研究の内容や教科を一新し、学校全体で協働しながら子どもの実態に即した研究をつくっていきたいと考えている。